

令和六年度に、宿毛海上保安署は令和七年度に庁舎移転を計画している。

問 それぞれ土地売却価格、共同利用部分施設整備費についての県交付金を聞く。

答 土地売却費は整備に要した用地費、設計費、工事費等の事業費を面積案分し、宿毛海上保安署は五千四百九十九万円、宿毛警察署は一億三千三十九万円、幡多土木事務所宿毛事務所は九千四百七十三万円である。共有使用する道路、調整池等に係る費用負担としての施設整備事業費交付金は宿毛警察署一千四百二十七万円、幡多土木事務所宿毛事務所一千三十六万円である。

高台へのアクセス道冠水対策について

問 高台へのアクセス道整備はどうなっているか。

答 錦口の橋から旧マシュールまでは、高上げした与市明川の堤防に沿って新たな道を整備する計画であり、そこから高台入り口付近までの百二十メートルの高上げ延長を県に要望して

いた。要望区間は約四十センチの高上げ工事が完了しており当初の計画と異なるものではない。

問 この外にアクセス道整備計画はあるか。

答 片島中学校前ポンプ場付近から県道宿毛城辺線までの高上げを令和三年度内の着工を目標に計画している。高砂から市道高台一号線へ接続する道路については、現在県に要望している。

問 錦川、与市明川工事の概要を聞く。

答 与市明川は約二百三十メートルの堤防築造工事を、錦川では約三百四十メートルの護岸工事を、さらに内水排除のポンプを錦川両岸に二基ずつ配置する。

問 アクセス道冠水対策は、当初聞いたものと違う感覚があり、多くの方から確認を求められている。広報で整備計画の通知ができないか。

答 県の事業なので県に相談させていただく。広報掲載については、現時点で答弁は差し控える。

問 これらの整備により平成三十年豪雨にも七割の職員が参集できるという庁舎建設審議会答申の目標は達成できるのか。パトカーの出動も心配だ。

答 降雨量、潮位等との関連で冠水防止効果を一概に示すことは難しい。しっかりした資料での話ではないが、あえていうと潮が引けば道は通れるというのが現状である。十年に一度の雨量のもとで計算をして県道宿毛城辺線の通行に支障が出ないことを見込んでいる。



松浦 英夫 議員

教育長の所信について

問 新教育長としては令和三年度の教育行政方針に基づき取り組まれると思うが所信を問う。

答 様々な学習を通じて、やりがいや生きがいを持って生活できる人づくりが重要である。学校、保護者、地域、そして教育委員会がワンチームとなって

子供たちの教育の充実に取り組む。

文化財の保護行政と人権教育について

問 鵜来島の戦争遺跡についての考えを問う。

答 今後も調査を継続し情報の蓄積を行うが、歴史を理解する上で大変意義深いものである。

問 この貴重な戦争遺跡を、宿毛市の文化財として保護・保存すべきではないか。

答 今年度から高知県においても戦争遺跡の実地調査を行うことにしている。今後も高知県の動向を注視しながら参考になりたい。

問 今後の人権教育についての取組について問う。

答 これまでも学校現場で人権意識の高揚を図ってきた。学校教育においては、いじめや不登校問題等様々な人権問題に関連する課題が大きな問題である。教育長として相手の立場に立ち、相手を思いやることのできる人権教育の推進や啓発を責務と位置づけ、各種団体と連携しながら

ら人権教育の推進に努めていく。

問 株式会社DHCのウェブサイトに吉田嘉明会長名で「在日コリアンを差別する文書が掲載された。」と報道された。今回の吉田会長の発言について、市長はどのように考えているのか。

答 会長の発言は、差別的な発言であり決して容認出来るものではない。これまでの会社側の対応から本市と締結している協定については解約せざるを得ないと判断し通知した。

観光行政について

問 咸陽島で見られる、大潮の時に約二時間程、大島と陸続きになる「トンボロ現象」を宿毛市の観光資源として活用すべきではないか。

答 咸陽島は、だるま夕日の絶景スポットであり、観光資源として、多くの魅力を秘めた島である。引き続き、咸陽島公園を宿毛市の観光拠点として整備をしていきたい。

地区懇談会について